

かぶしきがいしゃ ふ く だ

株式会社 FUKUDA

〒607-8170 京都市山科区大宅向山6番地

☎ 075-573-3030 ☐ info@fukuda-lub.co.jp

www.fukuda-lub.co.jp



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



株式会社FUKUDAは
じぞくかのう かいはつもくひょう
持続可能な開発目標(SDGs)を
支援しています



FUKUDA

未来のしごとのつくりかた



むかしむかし、日本の首都があった京都。

その南東にある山科は、むかしからたくさんの人や
荷物が行き来する、とてもにぎわう場所でした。

ちかくには、1000年以上の歴史があるお寺もあります。

山や森もたくさんあります。

ここに、FUKUDAの会社があります。

ふくだたんじょう
FUKUDAが誕生したのは、1969年。

つきとうちゃく
アメリカのロケットがはじめて月に到着した年のことでした。

にほんまさいちゅうせかいじゅう
日本では、マイカーブーム※の真っ最中。世界中がワクワクしていたころ、

ふうふくるまう
ある夫婦が、車の「エンジンオイル」を売りはじめたのです。

くるまうご
"エンジン"とは、車を動かすためのエネルギーをつくる機械のこと。

にんげんしんぞうぶぶんあぶら
人間でいえば、心臓にあたる部分です。“オイル”とは油のことで、

うご
エンジンの動きをよくするためにつかいます。

にんげんけつえき
こちらは、人間の血液のようなものですね。

くるまいのち
ふたりは、車の命をささえる「エンジンオイル」を、

いっしうう
一生けんめい売りました。

しみんじぶんせんようくるまかだいりゅうこう
※ マイカーブーム=市民が自分専用の車を買うことが、大流行したこと。

くるまこうきゅうひんか
それまでは、車は高級品で、なかなか買うことができなかつたのです。



それから40年後、かれらの息子のよしゆきが、社長になりました。

そのとき、よしゆき社長はかんがえました。

「ほかの会社もエンジンオイルを売っているから、競争がたいへんだ!
ぼくたちにしかできない仕事をみつけよう!」

そこで、オイルをお客さんに自分でとどけるためにトラックを買いました。

オイルをたくさん保管する倉庫もつくりました。

さらに、いらなくなつたオイルをあつめる仕事もはじめました。

つまり、FUKUDAは「エンジンオイルのなんでも屋さん」になったのです。

だれでも、こまつたことがあれば、FUKUDAにたのめばよいのです。



よしゆき社長となかまちは、さらにかんがえました。

「もっともっと、お客様のためになる仕事をしたい」

「ぼくたちの仕事をとおして、きれいな地球をまもるには
どうしたらいいのだろう?」

なかまちは、オイルをいれるドラム缶にかわる容器をさがすことに

しました。新品のオイルが入っているドラム缶はとてもおもくて、
はこぶのもたいへんです。また、缶をつくるときにも、ゴミとして
もやすときにも、たくさん二酸化炭素をだすので、
地球温暖化の原因になります。だから、もしも、かるくて、
なんどもつかえる容器があれば、便利だろうとおもったのです。

そしてうまれたのが、エンジンオイルをお客さんが必要なとき
必要なぶんを販売する“はかり売り”サービスでした。

つまり、お客様の店にタンクをひとつおいておいて、

必要なぶんだけオイルをとどけにくしくみです。

● ドラム缶をつかわないぶん、オイルをやすく買うことができます

● ドラム缶をつくったり、するときに発生する、二酸化炭素がへります※。

※ 1年間で、約100世帯のかついの電気使用量とおなじ量の二酸化炭素をへらせるように
なりました。包装資材ではじめての「エコマーク」も、もらいました(第12121001号)。

● お客様は、おもい缶をはこぶ必要がなくなりました。

もう腰がいたくなることもありません!

ほかにも、たくさんの「いいこと」があります。それは……



ふくだ
FUKUDAのはたらくクルマ図鑑

これが、かれらがつくった、エンジンオイルをとどけるクルマです。

きゃく ちきゅう
お客様と、地球上にやさしいアイデアがたくさんつまっています。

たいよう はつでん
はしってあるあいだに太陽エネルギーで発電します。

でんき
その電気をつかって、エンジンをきったまま、
オイルを補充できます。排ガスも騒音もでません。

ほじゅう よご
ポンプをつかって、オイルの補充と汚れた
かいしゅう オイルの回収を同時にできます。



たいようこう はつでん でんき じしん さいがい
太陽光で発電した電気は、地震などの災害が
ひょうでんげん
おきたときの非常電源になります。
やく だい じゅうでん
スマートフォンなら約200台の充電ができます。

なかたちの努力は、つづきます。

「このシステムをもっと便利にさせたいな。

オイルがなくなったら自動補充できるような、
ゆめのようなしぐみをつくりたいんだ！」

どんどん進化する技術をつかえば、

あたらしいサービスがつくれるはずだ。
ごはんをたべているときも、おふろにはいっているときも、

みんなが頭をひねってひねって、ひらめいたのが……。



さいしん
最新センサーをつかった「残量けんちシステム」です。

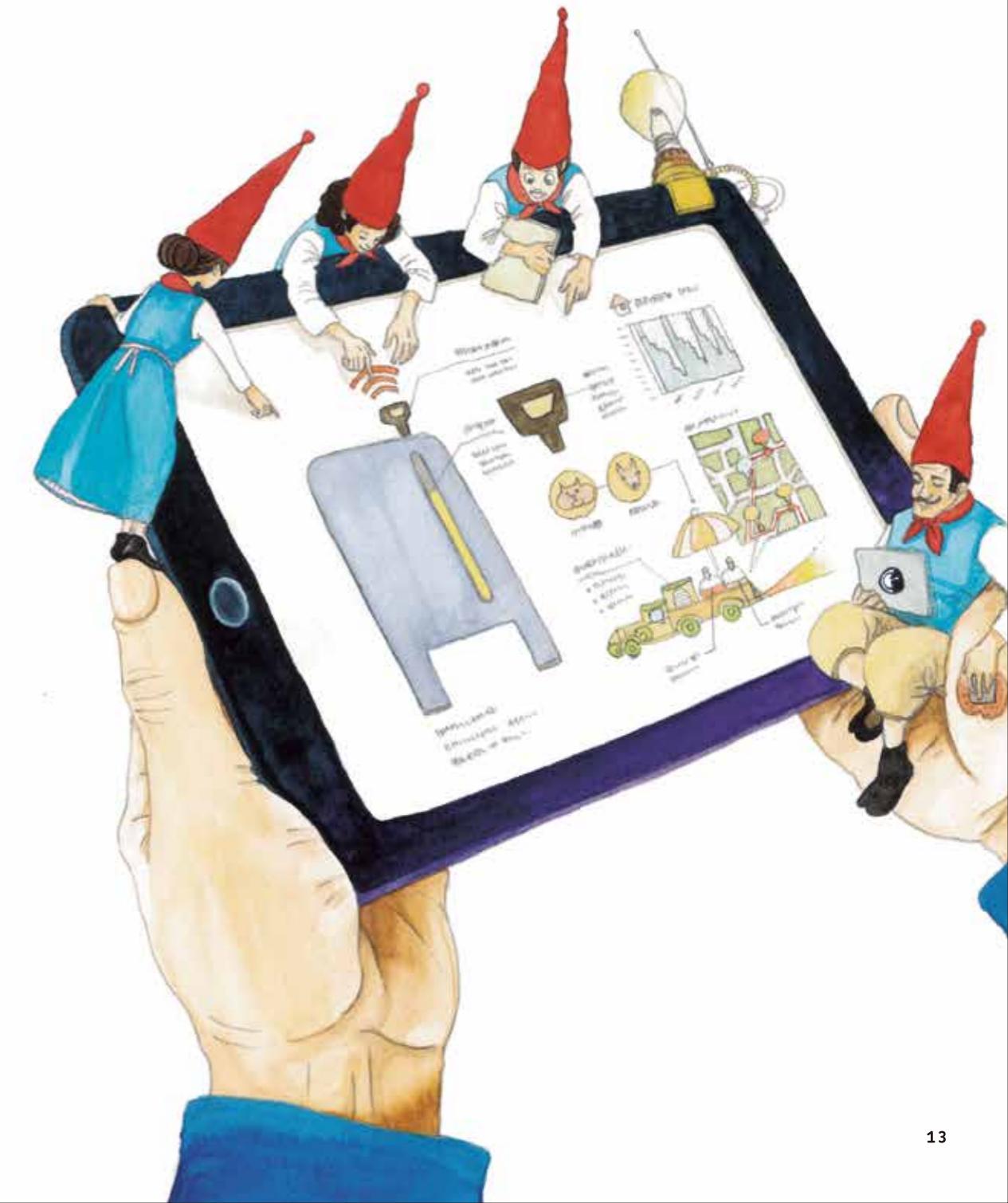
てのひらサイズのセンサーを、タンクにとりつけるだけ。

そのセンサーが、オイルの量をけんちして、

量がすくなくなると、FUKUDAにお知らせをおくるのです。

いそがしいお客様が、オイルをついで発注する必要はありません。

FUKUDAのみんなも、おとどけのじゅんびがしやすくなりました。



このシステムは、さらに“オイルマネジメントシステム®”へと

進化しました。

タンクのなかのデータをもとに、

人工知能がオイルがなくなる日をよそくし、

配送スケジュールや配送ルートを自動計算できるようになったのです。

さらに、このシステムにいろんなデータをかけあわせれば、

さまざまな分析ができます。

あたらしいビジネスをかんがえることもできるのです！

2020年には、特許をしゅとくしました。

(特許 第6666074号 液体配達システム)



オイルマネジメントシステム[®]は、液体であればなんでも応用できます。

たとえば機械の動きをよくするためにつかう油や薬、

災害のときの水の補給も……！

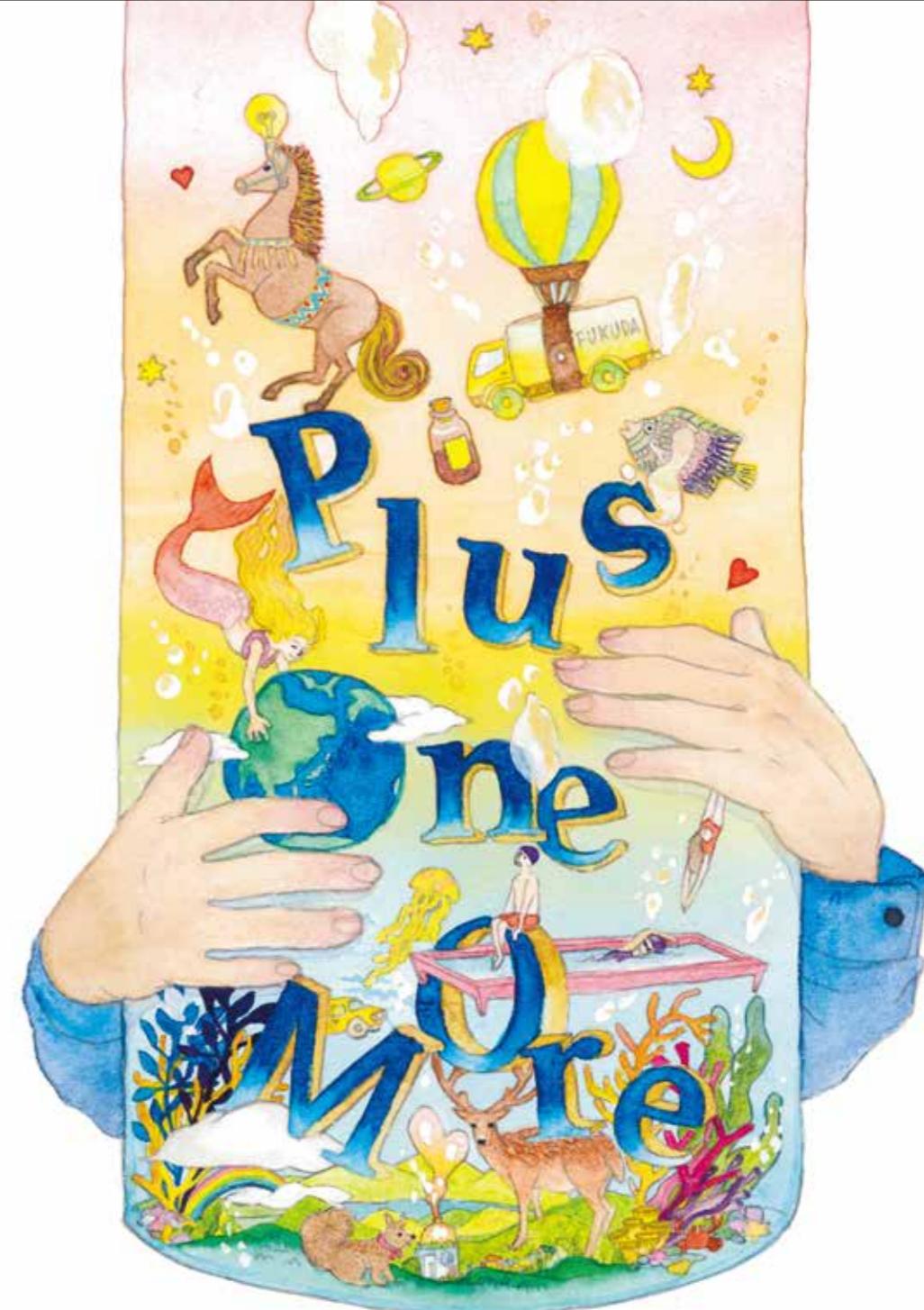
FUKUDAのなかまたちが、いつもかんがえているのは、

テクノロジーが進化し、エンジンオイルが不要になる100年先の未来。

どんなときも、お客様に、地球にやさしいサービスをつづけていくこと。

未来のFUKUDAは、あらゆる液体配送の
プロフェッショナルになるんだ——！

そのために、きょうも、あたらしいチャレンジをつづけていくのです。





ふくだ そうぞう みらい え
これは、FUKUDAのなかまたちが想像する未来の絵です。
ちきゅう
未来の地球がみどりいっぱい、みんながすこやかにくらし、
ばしょ
はたらいていける場所でありますように……。

ごあいさつ

ほん かぶしきがいしゃ ふくだ かいしゃ ねん さき みらい
この本は、株式会社FUKUDAという会社が、50年、100年先の未来にむかって、
いま きやく ちいき つた
今がんばっていることを、お客さまや、地域のみなさんに伝えたいとかんがえ、

つくりました。

しあわ しごと
「みんなが幸せになるには、どんな仕事をすればいいのだろう？」

しぜん
「うつくしい自然をまもるには、どうしたらいいのだろう？」

いっしょ じっこう
と一生けんめいかんがえて、実行していることをまとめています。

ねん そうぎょう
わたしたちは2019年に創業50年をむかえました。

にんげん さい しんか
人間でいうと50才をこえた会社が、さらに進化をつづけていくことは、

しゃいん
なによりのよろこびです。わたしたちは社員がひとつになって、

きのう きょう あした しゃかい
昨日より今日、今日より明日、ひとつでもみなさんや社会のためになる

ついきゅう
サービスやアイデアを追求していきます。

株式会社FUKUDA

だいひょうとりしまりやくしゃちょう ふくだ よしゆき
代表取締役社長 福田 喜之



会社概要はこちらから
www.fukuda-lub.co.jp

